

京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室
京都大学 (2022 YHAI, YITP, Kyoto University 寄稿)

April 7, 1962
1962年4月7日

私ども 日本の科学者は、核戦争の回避と恒久平和の実現に
ついてかねてから重大な関心をもち、Russell 卿および故 Einstein
博士の提唱に基づく貴会議の活動と寄与に対して、Pugwash
における第1回会議以来終始深甚な敬意と心からなる支援を送つて
まいりました。第1回会議のあと、日本の代表的科学者の集りである日本学
士院および日本の科学者の総意を代表する機関である日本学術会議
会員の間で行われた貴会議の声明の支持署名は400名を超えました。
日本学術会議はその後数次にわたり、貴会議を支持する意向を表明
しております。幸いにして貴会議の精力的かつ熱誠あふれる努力と在
界の科学者の支持協力が広く在界の在論によって支持され完全
全面軍縮への国連総会の満場一致の希望表明や18ヶ国軍縮
委の開催に到りましたことは、私どもも大いに喜びとあるところであり
ます。特に今年3月国連から東西104国の専門家がまとめた「軍縮の経済的
社会的帰結」について明るく見通しが発表されたことは私どもも高く
評価しております。しかしながら在界の情勢は依然として核兵器による恐

A4 x 100

DIRECT COPY SYSTEMS

怖の均衡状態を脱却するに到らずに完全全面縮減の実現には、高懸の困難がよこたわっているかにみえます。

この時期に当り貴会議は第9,10回の国際科学者会議を開催しようとしておられます。私どもは、その意義は誠に重要であると考へます。

この会議の成功を心から期待している私ども下記に署名した科学者

名は、貴会議に先だち 1962年5月7日より9日まで^撤堅田に集り、徹底的かつ科学的な討論を行いました。すなわち私どもは、さまざまの専門的立場から当面ある核危機の実態の分析を進めるとともに、完全全面縮減達成への可能な方途および視点について検討をおこなったのであります。こうして私どもは ^{ll} ~~Russel~~ - Einstein 声明の趣旨を日本国内に生かし、核戦争の回避と恒久平和の実現という人類の偉大なる国際的協同事業において、日本の科学者の果すべき、また果しうる役割の所在を定めるよう努力いたしました。

このような討論は第8回 ^{同じ大きな文字} (COSWA) でも要望された、在界各国において平和問題を徹底的に国内討論するよりにという主旨にそつたものであり、平和達成に対してささやかな貢献をもたらしものと私どもは確信してあります。また私ども企画自体が第9,10回貴会議への

A4×100

DIRECT COPY SYSTEMS

私どもは各専門家の報告とそれにもとづく討議の結果

などの諸点を確認し、これらの諸点について、第9, 10回 CosWA

においても、十分討議されることを要望^{することに}いたしました。
1回につき
大文字

私どもは一致して、来るべき第9, 10回 CosWAの御成功を心
からお祈り申し上げます。

1962年5月9日

日本滋賀県堅田にて

署名

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

紙
19012

